

## 新たな点検技術普及促進へ 福岡国道が研修会開催



国土交通省福岡国道事務所は2日、地方自治体などインフラの維持管理に  
関する公的機関の職員など  
を対象に、道路橋の点検支援  
技術を活用した現地研修会  
「写真」を開催した。この日の研

修会では、ドローンを活用した橋梁点検技術について、管内の橋梁点検現場を研修フィールドに設定して説明が行われ、参加者は新たな維持管理技術の可能性などについて知見を深めた。

研修会は、橋梁点検技術活用により点検の効率化が図られることから、地方公共団体職員らの新たな技術に対する理解を深め、その活用方法や留意点に関する知識を習得することにより、自らの定期点検に反映してもらうこと等を目的とするもの。

福岡国道による2日の研修会には、(公財)福岡県建設技術情報センターの職員が参加。同事務所管内の北部地区橋梁点検業務を担当するエイコー・コンサルタンツ(株)の笹木憲治次長が、ドローンを活用した橋梁点検技術とともに、点検補助機器として水中ドローンや、ファイバースコー

プなどの技術について紹介した。

参加者からは、ドローンから送られてくる画像と近接目視による確認精度の比較や、画像の管理方法などについて質問がなされていた。

福岡国道事務所の牧野和敏建設専門官と同道路保全課の山口学専門官は「自治体の職員には、研修会を通じて新たな技術がいかに点検業務の効率化につながるのかを知ってもらいたい」「現段階では高価な技術も、多くの関係者の理解が深まることで活用の拡大とコストの低下が図られ、さらなる普及促進につながっていくことを期待したい」等と話した。